But me more buts!

中本 恭平

(1) I like cats, but I don’t like dogs.
(2) I like cats, but I don’t like baseball.

(1) では愛玩動物という共通点が感じられるのに対し、(2) では猫と野球を結びつける共通点はすぐには思いつかず自然である。しかし、たとえば、休日に猫と遊ぶほうが野球をするより楽しいという人が「どうしても野球をしないのか」という質問に対して答えているのなら、(2) は「余暇の過ごし方」のような共通点が見いだせず、自然となる。

次例では何か対比されているか。

(3) I like cats, but my wife likes dogs.

意味の共通点は愛玩動物であろうが、「好き」という点では対比されていない。ここで対比されているのは「自分→（自分ではない→）妻」「猫→（猫ではない→）犬」である。愛玩動物として「猫派」と「犬派」に分かれることが多いという子備知識をもって(3)を解釈すると、「私は猫好き（なので犬は好きでない）＝「妻は犬好き（なので猫は好きではない）」という「好きで好きでない」の対比をもみにする。いずれの解釈でも、「自分ではない」「猫ではない」「なので犬／猫は好きでない」の部分は意欲化させておらず、語用論的含意となっている。このような含意は、but が用いられる場合に頻繁に生じる。

(4) が自然に感じられるのは、「猫好き（→猫以外の動物は好きでない→犬も好きでない）」という含意が後半部分で打ち消される。「犬も好きでない→犬も好き」という対比が成立するからである。一方、(5) では「猫が好き」と「ペットとして飼っていない」との間には直接的な反義関係は成立しない。一方、「猫が好き（なのでペットとして飼っている）」という推論が働き、その推論が含意化され、その含意が「飼っていない」と否定されて対比が成立する。この例が示すように、含意化は因果関係の結果の部分に起こることがよくある。(5) だけでなく、(3) の「妻（なので自分ではない）」「猫が好き（なので犬は好きでない）」さらに(2) でも「猫が好き（なので猫と遊ぶ）」のように結果部分が含意化されているとみなせる。

以上の考察を念頭に置き、高等学校の英語の教科書では but が上記どちらのパターン（対比が明示されているか、含意化されているか）で用いられることが多く、また後者の場合、どのような対比が含意化されているかを、以下 Revised POLESTAR English Course I （新研出版）の英文で用いて検証する。2014 年より新課程版として POLESTAR English Communication I が発行されているが、本稿で述べることは、その新課程版においても適用できることなので、旧課程版での考察にとどめた。調査箇所は同書の Lessons 1-8 の本文部分のみで、それ以外の部分（Short Story など）は除外した。調査対象としたのは but および however が用いられている文である。品詞は問わない。

調査箇所で調査対象語は合計 26 回用いられていた。うち 4 例だけが対比示型であり、残りの 22 例はすべて何らかのかたちで含意化されていた。but や however が用いられた文では、その対比関係を正しく理解するために、読み手が推論しなければならない場合が多く、圧倒的に多いことがわかる。対比が明示されているのは次の 4 例である。
In rice fields, they eat harmful insects and weeds, but they do not eat the rice plants. (104:11)
(数字はページおよび行を示し、複数行にまたがる場合は最初の行のみ示す。太字は引用者による。)

I couldn’t play cricket on the field, but technology provided cricket games on the computer and I was able to play cricket for the first time. (47:12)

It does not create something beautiful, but makes people think. (88:8)

Many of you will also answer sushi, but there will be only a few of you who know its history. (28:3)

The make 使役動詞として「…させる」と解釈すると対比がわかりにくいが、「それ (= オノ・ヨーコの芸術) は美しいものを作りださない人々が考えという状況を作りだす」と解釈すれば、対比が浮かび上がる。一方、(9)では「多数少数」が対比されている(9については後述する).

含意化される例は次のように3分類できる. 

[A] but (however を含む、以下同様)の前部の部分が含意化されている場合 
[B] but の後部の部分が含意化されている場合 
[C] but の前後両方の部分が含意化されている場合

最初に[A]について考察する.

The Eskimos lived far from Japan, but their faces were like my own. (70:13)

I already knew that they would be, but it was a surprise to see them all the same. (70:14)

The young people spoke English, but the older people used Eskimo all the time. (72:8)

Being disabled is normal to me because I've been disabled since I was born. But people tend to think I'm different. (46:8)

For years people have said the last place that we have not yet explored is outer space, not on earth. But we really do not have to leave our planet. (57:5)

04 04でのいずれも、文頭で but が用いられているので、前文の意味内容と対比されているはずである.

03 03では「障害者であることは自分としては普通のこと_REL 人々は私(普通の人間とは)違っているとみなす(すなわち普通ではないとみなす)」. 03では「人類未踏の地は地球上ではなく宇宙空間だと言われてきた地球を離れなくてもよい(すなわち未踏の地は地球上にある→それは深海である)」の下線部分が対比されている. 03では「地球上にある」が含意され、この含意にはさらに「深海である」が含意されており、2段階の含意が内在されている(03は深海探査を扱った Lesson 5: Into the Deep の英文).

04 04では「若者は英語を話す⇒若者は英語を話す→英語は話さない」であるが、all the time から推測して、「英語は話さない」という2段階目の含意が内在されているとみてよい. これらの例からわかるように、読解作業は含意を読み解く作業だと言ってもよいほどである.

ところで、前出の0303では but の後に合わせbut の前を含意化させて「(私は他の人と違っていない)⇒私(他の人と違っている)」「(地球を離れなければならない)⇒地球を離れなくてもよい」が対比されているともみなせる. しかし、次例ではそ
どのような逆転は許されない。

00 I cannot explain why this happened, but it was like falling in love, I suppose. (68:3)

08 では「説明できない⇒恋に落ちたようなものだ（と説明できる）」が対比されているが、「（恋に落ちたようなものではない）⇒恋に落ちたようなものだ」という対比を読み取ることはできない。また、前出の04では「若者は英語を話す（がエスキモー語を話さない⇒話せない）⇒年配者はエスキモー語を話す」と解釈することも可能であるが、「若者たちはエスキモー語を話そうと思えば話せるが、普段は話さない」という可能性もあるので、「若者はエスキモー語を話せない」とは断定できない。

次の箇所では、However で始まる文の中に but が用いられている。

00 He called her "the world's most famous unknown artist." However, it seems that people are now willing to see her not only as John's wife but as a great artist of our time. (94:14)

まず However の対比を確認すると、「He (=ジョン・レノン) は her (=オノ・ヨーコ) を「世界で最も有名な無名の芸術家」と称した⇒ヨーコを単にジョンの妻としてだけでなく、偉大な芸術家としてみなす人が増えつつある（すなわち有名芸術家になりつつある）」である。次に、not only A but B について次の各文と比較しながら対比関係を読み取る。

07 People do not see her as John's wife, but they see her as a great artist of our time.
08 People see her not as John's wife but as a great artist of our time.
09 People see her not only as John's wife but as a great artist of our time.

07 では「ジョンの妻としては見ない⇒偉大な芸術家として見る」の対比が明確である。一方、08 では「ジョンの妻としてはなく見る⇒偉大な芸術家として見る」が対比されているが、「ジョンの妻としてではないものの（すなわち）偉大な芸術家として見る」という意味関係が成立するので、but は事実上}

対比の意味合いを失う。これは only が入る09でも同様で、「ジョンの妻としてのみでなく見る⇒（すなわち）偉大な芸術家としても見る」となり、「ジョンの妻としてのみでないとは具体的にどういうことなのか説明する部分を but が導いている。

最後に[C]について考察する。

02 Some do, but some still write my name as Key, not Kay. (6:3)

代動詞 do は文脈上「I am not a key」（6:1）であることを覚えている（remember）」を意味している。そこで表面的な対比は「覚えている⇒Key と繰る」となりずれてしまう。02 の対比は「覚えていて（正しく Kay と繰る）⇒誤って Key と繰る」である。

Lesson 1: How Do You Spell It? では、02 の他に次の 3 か所で接続詞が用いられている。それぞれの対比関係は下に示す。

09 As a result, it may be hard for you to enter a certain school or company. But if this is true, why are English words so often misspelled in Japan? (7:8)
10 That is funny, but it is a basic mistake. (8:4)
11 However, I still worry about the influence of this kind of strange English. (9:6)
12 その結果 (=漢字を書き誤って悪影響を与えた結果) 入学や入社がしくくなる(ので正しく書く)⇒英単語では誤った縦りを書くのはなぜか(⇒正しく縦りるべき)
13 それ(=誤った縦り)はおもしろおかしい(のでそのままにしておいてよい)⇒縦りである(のでそのままにしておいてはいけない⇒縦を正すべき)
14 日本の広告で用いられる英語は単なる装飾(なので縦りが誤っているとかまわない)⇒この種の変な(=誤った縦り)の英語があると不思議がある(ので正しい縦りに改めるべきである)(12 の However はその前の段落の内容全体を受けているが、紙側の関係上、前段落の引用を別段した。)

対比関係に着目すると、Lesson 1 の著者が一貫して「誤った英語の縦りはよくないので、正しい縦りに直すべきだ」と主張していることがわかる。

対比の意味関係が、必ず逆接の接続詞で明示される
At school, I learned that good spelling is important for good writing. (7:1)

Part 1 第2段落と Part 2 は「誤った縦りでもかまわない正しく縦ることが大切である(ので誤った縦りを見過ごしてはいけない)の対比関係が成立し、28の冒頭に But などの逆接の接続詞が捕える。逆に、28の and は but に置き換えられない。

Some of you will say tempura, and others will say sukiyaki. (28:2, 9の直前の文)

Some of you will say tempura, but others will say sukiyaki.

He may be a good father but he's a terrible husband. (OALD, p. 951, may の用例, 太字は引用者による。)

He's a good father but he's a terrible husband.

で「『ようき父』を28より積極的に肯定している感じがするという点を除けば、「ようき父悪しき夫」 という対比関係は変わらない。しかし、実際の善悪の対比は「ようき父(ならようき夫でもあるはず)」(実際には)悪しき夫という含意に発生していると見るべきである。なぜなら、この含意から妻の腹立たしさや無念さがにじみ出てくるからである。A but B 構文では、B に話し手・書き手の言いたいことが述べられるのが普通である。このことは、28の順序を入れ換えればずくわかかる。

He's a terrible husband but he's a good father.

でこの男性を好意的に評価している印象を与え、さらに、29の前半部分を削除する（→30）と、この男性にはよい点が見出せないような印象を与え、29と同義として解釈されかねない。

He's a terrible husband.

He's a terrible man.

つまり、29ではこの男性を父親ではなく夫という観点から見た場合の評価であることが、前半部分との対比から読み取れるのであるが、29では比較の対象が明示されていないため、聞き手・読み手が比較の対象を推測できるような状況でなければ、29のように拡大解釈してしまう可能性が高まるのである。逆接の but や however は、比較という手段を用いて but/
however の後の部分を即立たせる役割を果たしている。

本稿で述べたことを念頭に置き、最後に練習問題をやってみよう。調査箇所から得た but / however の使用例のうち、まだ引用していないものを挙げる。どのような意味が対照されているだろうか、逆接の現状調の前の部分を削除した文と比較しながら、書き手の言いたいことも確認してほしい。

She said nothing, but picked up a piece of bread and began to butter it with a knife. (17:6)

At first, it seems that people ate sushi because it is healthy, but now they have come to eat it for its taste. (32:1)

Most vessels which explore undersea drop straight down through the water. Some travel slowly along the ocean floor and collect samples and information. But Deep Flight I moves around like a fighter plane. (56:4)

I would like to visit, but I do not know anyone. (69:9. イタリック体は原文による。)

I tried to learn a little of the Eskimo language every day, but it was very difficult. (72:9)

She is best known as the woman who married John Lennon, a member of the Beatles. However, that is only part of her. (88:3)

"I want ice cream." But that's a dessert. We should start with soup, of course." (91:2)

... and his mother said, "If you used weed killer, we would not need to pull weeds." However, he would not change his mind. (102:5)

The aigamo method is more profitable than you may think. The yield of rice is about 90 percent of that of normal rice. However, it sells for a 30 percent higher price than normal rice, ... (106:1)

"There is great joy in organic farming," he says. "But without the support of consumers, my efforts would have failed." ..." (107:3)

「何も言わなかった（→発話という行為は行わなかった）⇔パンを取り上げてパターンを塗り始めた（→発話行為以外の行動に出た）」前半部分を削除した文と比較すると、前からは「無言の圧力をかけてきた」という意味合いが読み取れる。

「当初は寿司を食べたのは健康のため（→味のため、楽しむためではない）⇔今では寿司を食べるのは味わう（楽しむため）（→健康のためではない）」but の前の部分がないと寿司の歴史の話題につながりにくい。

「他の潜水艇は水中を高速で動き回らない」⇔ Deep Flight I は水中を高速で動き回る よりの潜水艇と比較することで、Deep Flight I の特徴を際立たせている。

「訪問したい（→ので訪問する）⇔（地元に）知り合いではない（→ので訪問できない）」前半部分だけだと「訪問したい」という気持ちが伝わらない。

「エスキモー語を習得しようと努力した（のは習得できると思ったから）⇔難しかった（ので習得できなかった）」努力しても習得できないくらい難しい（日本語や英語とはかけ離れている）言語だと言いたい。

「オノ・ヨーコはジョン・レノの妻として有名⇔オノ・ヨークの一部分にすぎない（→レノの妻として以外の面では有名ではない→以外の面でも有名になるべき）」定説（前半部分）と対比することで、ヨークの意外な一面が強調される。

「アイスクリームがほしい（→アイスが与えられる）⇔アイスはデザートだ（→アイスは最初に食べるべきものとして与えられない）」ここは対話なので、前半部分は削除できない。but 以下に比重が置かれるので、相手の要求を否定している。

「除草剤を使えば草むしりをしなくてすむ（ので除草剤を使こう）⇔決心を変えなかった（すなわち除草剤を使わなかった）」決心を変えないという意志の強さの存在が書き手の言いたいことである。

「収穫量が 90％しかできない（→利益が少ない）⇔普通の米よりも 30％高い値段で売る（→利益が多い）」よい面が強調される。

「無農薬農法（アイガモ農法）は楽しい（ので今後も努力を続けて）⇔消費者の支持がないと努力がむだになっていた（ので努力を続けていなかったであろう→楽しくない）」消費者の支持が必須であることが強調されている。

But me more, more buts!

引用文献
橋内武 他 (2006) Revised POLESTAR English Course I. 数研出版。

（共立女子大学教授）